月刊やまなこ

2014.2.15 発行 No. 195

2 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター (あるこっと) だより







雪の少なかった湿原は先日の低気圧の影響で、雪原へと姿を変えてしまった。季節風に雪が舞い、ハンノキ林を通り抜けるたびビュービュー、ザーザーといった音が聞える。雪煙りの中で輝く太陽の光にわずかな春の兆しを感じるものの、北国の春はカレンダー通りにはならない。遠くにキタキツネの姿が見えた。まるで彷徨うように歩いてはギャンと鳴きながら、やがてハンノキ林の方向へと向かって行った。



コッタロ川と湿原のほとりから

164 2月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住. 中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

三寒四温真っ只中,昼夜の気温の乱高下に眉の上げ下げも頻繁な昨今,"子別れの丹頂挑む猛吹雪"。このエリアで毎年営巣する丹頂3番のうち第2コツ&タロの18羽目の幼鳥は、昨年生まれ育った唯一羽の子鶴でしたが目出度く9日に卒業(自立)して行きホッとしております。思いもよらなかった暖気に見舞われた今季は少雪で、途切れがちのクロカンスキーも諦めかけていた本日(10日)、夜が明けるとまるで魔法の如きゲレンデ。『念ずれば通ず』で10㎝をわずかに越す積雪は1月27日の9㎝足らずの上に積み上がって、クロカンスキー本番にふさわしく、ウハウハの滑り出し。これ迄の不完全燃焼感もふっ切れそうな滑り心地ではありませんか。

一方, "如月の庭は野鳥の花盛り"で、7つ設えたエサ台には各々リンゴとみかん、脂身にヒマワリの種が盛り沢山。常連の四十、五十、ハシブト雀、シメは云うに及ばず、赤ゲラ7~8羽と鵯等食客達がひきもきらずの大盛況。その中で異色の赤ゲラ♀1羽は、何と鵯用リンゴに御執心。大口開いた瞬間をパチリ!不思議なのは、他の♂♀がリンゴに全く興味を示さないことです。

さて、これ迄庭池に日参して2ヶ月余りになる川蝉君は今や我家のアイドル的存在となって連日、楽しませてくれております。目のさめるようなコバルトブルーの背部に劣らず、濃いオレンヂ色も鮮やかな腹部を見せてこちらを向き、鋭いまなこをキラリ。狙いを定めた魚に霧氷の枝からヒラリと舞降りる一瞬の迫力が伝わりますか否か・・・・。

ところで、普段の殺風景なモノトーンの世界にも時折、ハッ!と息をのむ光景に出くわすことがあって、写真の赤ゲラが止まっている木立ちの向こうに浮かぶ白雲が棚引くブルースカイとのクラデーションには自然の神々の粋なはからいが感じられるのではないでしょうか。



カラスの仲間のワタリガラスは、一年を通して見られるハシブトガラスやハシボソガラスよりも大きく、この辺りでは、数は少ないですが秋から冬にだけ見られる冬鳥です。アイヌ語で老大なカラスを意味するオンネパシクルと呼ばれています。湿原の大空を舞うシルエットはまるでワシのようで、くさび形の尾が特徴的です。カラスにしてはちょっとサイズが大きめで、カポンカポンなど聞きなれない鳴き声がしたらゆっくり観察してみてください。



期間限定コースを歩いて冬の自然を楽しみました! (2/15)

本州の記録的な大雪をよそに、当地の天気はなんとかもちこたえ、曇天の中スノーシューを履いて 冬の塘路湖畔散策を行うことができました。3月上旬には住人が戻ってくるアオサギコロニー付近や



結氷した湖など期間限定コースで、冬ならではの自然を楽しみました。 電巣の大きさと数に参加者が驚いたアオサギコロニー。



電ケンケンパーの足跡をたどっていくと 湖岸の柳に到着。いったい何匹いたの?と思うほど、エゾユキウサギの遺留品が。 刃物で切ったような食痕や乾燥した糞が残されていました。

横浜と埼玉からの参加者は、結氷した湖を歩けることにとても感動していました。

ネムネムのつるいうろうろ日記 Vol.47「贅沢な乗馬」

真冬の北海道で乗馬をしてみたいと、ウマ好きの友達が栃木県からやってきたので、鶴居村にある「どさんこ牧場」に行ってきました。

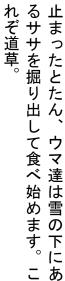
前々日までの大雪と打って変わって晴天。風もなく穏やかな天気の下、新雪をモフモフと道産子で進みます。乗馬コースの向かいにある牧草地では、木にオオワシが何羽も止まっていて、時々私たちの頭上を横切っていきます。最高に贅沢な乗馬でした。

さて今回の乗馬は偶然、いつも仕事でお世話になっている環境省の方がご夫婦でいらっしゃっていて、一緒にレッスンを受けることになりました。このご夫婦、自然について学ぶ学校のご出身だそうで、私を含めたお客さん4人中3人が自然系の仕事の経験者というかなり特殊なメンバー。ガイド役の牧場の方も驚かれたでしょう。乗馬中、生き物が出てくれば、誰かが解説してくれるので、ガイドの多い(というか、私の友達以外ガイドしかいない)観察会状態。そういった意味でも大変贅沢な乗馬でした。

辻 ねむ (標茶町郷土館学芸員)

2がつ 11にち

ばしょ つるい





3月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

釧路湿原フィールド ウォッチング

[日時] 3/8 (土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 10名、無料

[場所]シラルトロ湖周辺 (集合場所は憩の家かや沼駐車場)

[持ち物] 防寒着、防寒靴、帽子、手袋 *積雪状況によってはスノーシュー使用(貸出無料) ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで ℡ 015-487-3003

春を待つ湿原ハイク

[日時] 3/9 (日) 13:00~15:00

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで To 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【 植物 】(1/27) サワシバの冬芽 (2/7) エゾニワトコの冬芽. フッキソウ (2/11) ハリエンジュのタネ. ヤチダモのタネ. シラカバの幹の凍裂. キハダの実. 銀色に輝くヤナギの芽とキタコブシの芽

(鳥) (1/17) オオワシ. ホオジロガモ. アオサギの群れ (1/18) オオハクチョウ (1/19) オジロワシ (1/26) ノスリ (1/27) コゲラ. ワタリガラス (1/28) マガモ. カワアイサ (2/11) ベニヒワ. タンチョウの番い. アカゲラ (2/14) シマエナガ

【その他】(1/18) ワカサギ. フナ (1/19) 塘路湖の氷の厚さ 31 センチ. エゾユキウサギの足跡と糞. キタキツネの足跡 (1/27) ツチグリ (2/7) 標茶の最低気温氷点下 22.6 度 (今季最低記録) (2/11) キタキツネ. クモガタガガンボ

■通行止め解除のご案内

道道 1060 号クチョロ原野塘路線は、法面決壊のため大型車のみ通行止めでしたが、終日通行可能 となりました。

- ■車で湿原を観光される方は、路面状況にあわせた安全運転をお願いします。
- ◆日出・日入時間 2/15(6:21, 16:53). 2/28(6:01, 17:10). 3/14(5:37, 17:27)



フィトンチッドの森でくつろぐシマエナガ(2/14)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

●088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00~16:00 (4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週水曜日 12 月 29 日~1 月 3 日 入館無料